小・中学校再編にかかる地区意見交換会（上野会場）

１ 日時　　令和８年１０月１４日（水）　１９時～２０時２０分

２ 場所　　上野小学校体育館

３ 参加者　　３１人

４ 事務局　　都留教育長、神崎教育部長、御手洗教育総務課長、吉田学校教育課長
　　教育総務課職員　４人、学校教育課職員　２人

５ 次第

（１）開会

（２）教育長あいさつ

（３）教育部長あいさつ

（４）佐伯市立小・中学校再編（案）について
- 今回の説明会の趣旨とこれまでの経過
- 小・中学生の現状と今後の見通し
- 学校の再編に関するアンケート調査結果について
- 学校再編することのメリット・デメリット
- 適正な学校規模の考え方
- 小・中学校再編（案）
- 中学校再編後の学校規模
- 小学校再編後の学校規模
- 小・中学校再編までのスケジュール案

資料を基に上記の項目等について説明

（５）質疑応答

（６）意見交換

（７）閉会

6 質疑応答・意見交換の内容

（1）質疑応答

※個人が特定されるおそれのある発言等については、個人情報保護の観点から、一部を編集・省略して掲載しています。

発言者	発言内容
参加者	①学校再編の背景として急激な少子化の進行と施設の老朽化が挙げられています。統合先の学校については、施設の耐用年数が十分にあり、将来にわたって使用可能であるという判断に基づいて選定されているのでしょうか。 ②中学校は令和 13 年度、小学校は令和 12 年度の次期学習指導要領改訂を見据えて進めるとのことですが、情報化や AI 技術の進展に伴い、教育現場の施設や学習環境の整備もあわせて行われるのでしょうか。
事務局	①統合先の校舎につきましては、今後も十分に活用できる見通しがあることを前提としておりますが、今回の統合案におきまして大規模な改築等は予定しておりません。 ②学習指導要領の全面実施と開校時期が重なって学校現場に過度な負担が生じないよう配慮したスケジュールとしております。次期学習指導要領の柱となる「探究的な学び」では、正解のない課題に対して仲間と協働して答えを見出す活動が中心となるため、一定の集団規模が不可欠となります。情報教育等の施設・環境整備につきましても、今後の動向を注視しながら計画的に進めてまいります。
参加者	①アンケート調査の対象者について質問です。今回のアンケートは未就学児や小・中学生のいる家庭を対象としていますが、市民全体の意見を反映できるような調査は実施されたのでしょうか。 ②個に応じた多様な学びを保障する観点からは、大人数学級では一人ひとりに目が行き届かない懸念があります。統合によって 1 学級あたりの人数が増加した場合、市の独自予算によって少人数編成（20 人学級など）にすることは可能でしょうか。
事務局	①アンケート調査につきましては、現時点では保護者等を対象としたもののみであり、地域住民全般を対象としたアンケートは実施しておりません。地域の方々のご意見につきましては、今回開催しております各地区意見交換会

	やご意見箱を通じて広くお伺いしている段階でございます。 ②学校規模が大きくなった場合であっても、子ども一人ひとりを大切にする姿勢は欠かせないものと認識しております。学級編成や教員定数につきましては国や県の基準に基づいて定められているため、市独自予算による少人数編成の導入等につきましては、現時点では具体的な検討には至っておりません。
参加者	中学校の再編について、令和 10 年から 11 年度の 2 年間を準備期間とし、令和 12 年度に開校する予定となっています。校舎の大規模な改修は行わないとのことですが、指導要領の改訂や生徒数増加に伴う施設改修は必要ないのでしょうか。また、準備期間から開校まで 2 年間というのは短すぎるように感じられますが、どのようにお考えでしょうか。
事務局	施設改修につきましては、既存校舎を有効活用することを基本とし、大規模な建て替え等は予定しておりませんが、必要に応じた一部のリフォーム等は検討してまいります。スケジュールにつきましては、令和 9 年から 11 年度の 3 年間を準備期間として位置づけ、令和 12 年度の開校を目指しております。過去の統合におきましても概ね 3 年程度の準備期間を経て統合を行っている例が多いことから、段階的な再編案としてまずは中学校の統合を先行させる計画としております。
参加者	①統合後の受け入れ校となる上野小学校の教室数について心配しております。現在の規模でちょうどよく見えますが、統合によって児童数が増加した場合、既存の教室に収まりきるのでしょうか。 ②共働き世帯の増加により放課後児童クラブの利用ニーズが非常に高まっています。現在の上野小学校の児童クラブも満杯に近い状態ですが、統合に伴う受け入れ対策は講じられるのでしょうか。
事務局	①上野小学校の教室につきましては、統合時に普通教室が 11 室必要になると見込んでおります。校舎の新増築は容易ではございませんが、既存校舎内の食堂棟等の空きスペースを改修することにより、必要な普通教室を確保していく方針で検討を進めております。 ②放課後児童クラブにつきましては、統合先となる学校で集約するのか、あるいは元の地域にも拠点を残して複数箇所で運営するのかなど、利用ニーズや定員を踏まえて担当課（こども福祉課）とともに協議を進めてまいります。

参加者	①今回の再編案について唐突感があるとの声が多く聞かれます。市の総合計画や教育委員会の長期計画（まなびプラン）の中に、学校再編の方針があらかじめ位置づけられていたのでしょうか。 ②上野小学校が受け入れ校となる場合、放課後児童クラブの受け入れ容量が不足する懸念があります。統合元の地域（明治・切畑等）の既存施設を活用することも考えられますが、下校後に児童がどのように元の地域へ戻るのか、スクールバスの利用基準との関係も含めて具体的な対応策を明らかにしていただきたいです。 ③近隣地域（宇目等）から保護者の勤務の都合等により上野小学校へ校区外通学させたいという要望がありますが、どのような条件を満たせば認められるのでしょうか。
事務局	①計画の位置づけや唐突感についてのご指摘につきましては、具体的な学校名を含めた再編案をお示ししておりませんが、総合計画やまなびプランにおいて適正規模の検討を進める旨の記載をしております。現在策定中の次期計画において再編方針を明確に位置づけ、丁寧な説明に努めてまいります。 ②放課後児童クラブにつきましては、児童の安全な移動手段やスクールバスの運行方法も含め、関係部署と連携して検討を進めてまいります。 ③校区外通学につきましては、保護者の就労により昼間留守家庭となる場合において、保護者の勤務証明書の提出および通学先校区内に身元引受人（祖父母等）が存在することなどを許可基準として定めております。今後の再編の推移に応じて通学要綱の見直し等も必要になると想定されますが、現行制度におきましてはこれらの条件を満たす必要がございます。

（2）意見交換

※個人が特定されるおそれのある発言等については、個人情報保護の観点から、一部を編集・省略して掲載しています。

発言者	**発言内容**
参加者	佐伯市の人口減少と少子化のスピードを考慮すると、学校を物理的に統合して一定規模を確保しても、数年後には再び児童・生徒数が減少し、さらなる再編を迫られることになります。学校をくっつけて規模を維持する手法には限界があるのではないでしょうか。探究的な学びが目的であるならば、通信

	技術を活用して他校の児童生徒とオンラインで合同授業を行い、画面上で20人規模の学習集団を形成するような手法も考えられます。学校が統合されれば市内各地に空き校舎が残り、跡地利用も大きな課題となります。子どもたちを遠距離移動させずとも多様な学びが実現できる手法を検討していただきたいです。
事務局	学校を物理的に統合するだけでなく、情報通信技術等を活用した多様な学びの場の構築や、空き校舎の利活用に関する貴重なご意見として受け止めます。市内におきましても、本匠中学校が海外姉妹都市とオンラインで国際交流を行っている事例や、小・中学校間でのリモート授業などの実践が進んでおります。学びの場の充実策としてICTの活用は引き続き推進してまいりますが、オンライン教育の限界や対面での集団活動の重要性も併せて考慮しながら、検討協議会において議論を深めてまいります。
参加者	学校再編を進めるにあたっては、教室の確保や放課後児童クラブ、通学支援などのハード面・支援体制を確実に整備した上で実行に移していただきたいです。統合後に不都合が生じて保護者が訴えても、後から変更することは困難です。児童クラブへの送迎バス運行など、具体的な環境整備を約束した上で進めていただくよう要望します。また、本匠小・中学校のように小規模特認校として特色ある教育を行っている学校には大変魅力を感じております。不登校に悩む子どもが増加している中、大規模校に全員を集めるのではなく、地域と密着して学べる特認校のような選択肢を各所に増やし、子どもたちの多様なニーズに応えられる学校づくりを行っていただきたいです。
参加者	中学校が令和12年度に先行して統合され、小学校がその2年後の令和14年度に統合される計画ですが、小規模校では小・中合同で運動会や地域行事を行っているところが多くあります。リーダーシップを発揮していた中学生が先にいなくなってしまうことで、残された2年間、小学校の児童や行事運営に大きな影響が生じるのではないかと懸念しております。事前の対策は考えられているのでしょうか。また、宇目地区の中学校については通学時間が1時間以上かかるため存続する方針とされていますが、再編後も通学の物理的な遠さは解消されません。他地域との組み合わせや別のあり方についても柔軟に検討すべきではないでしょうか。
参加者	未来の地域を担う子どもたちの視点を取り入れるべきだと考えます。中学生に学校再編について尋ねると、非常に具体的で多様な意見を持っておりま

	す。子どもたちに議論の機会を提供し、アンケートなどを通じてその思いを再編計画に反映させるべきではないでしょうか。また、統合の形態について資料には統合の形態として「編入統合」と示されていますが、編入される側の学校（明治・切畑等）の校歌や校訓、歴史が途絶え、既存校のものを押し付けるような形になってしまうのではないかと懸念しております。これについては、合流する側はもちろんのこと、受け入れ側となる上野小学校の保護者からも「忍びない、胸が痛む」という声が聞かれます。 かつての市町村合併の議論や、過去に地域で学校同士が対等合併して新しい小学校が誕生した事例を振り返りましても、新しい校名のもとで新しい校歌や校訓をみんなで一緒に創り上げたからこそ、子どもたちや地域に不満が少なく前向きに受け入れられたという経験がございます。 編入統合という形では、新しく入ってくる子どもたちはもちろん、受け入れ側の子どもたちにとっても環境の急変による動揺が心配されます。上野小学校のご出身の方々にも校歌や母校への深い愛着があることは重々理解しておりますが、双方が納得して新しい学び舎を迎えられるよう、対等統合として新たな学校名や校歌・校訓を地域全体で創り上げていく形も選択肢として検討していただきたいです。 あわせて、上野地区は水害リスクを抱える地域でもあります。既存校舎の手狭さや安全面を考慮し、水害を回避できる場所、例えば今学校給食センターがある付近に新たな小学校を新設するという選択肢も検討に値するのではないでしょうか。
参加者	現在、各校の教育活動は地域のボランティアによって支えられておりますが、校区が広域化した場合、遠方の地域住民が受け入れ校へ足を運んで支援を継続することは困難です。また、児童が自分の地域へ出向いて体験学習等を行う際にも、移動用バスの確保や費用負担が大きな壁となります。広域化に伴う地域学習やボランティア活動を維持するための予算や交通手段の支援を講じていただきたいです。また、過去に児童数が増加して一時的に 2 学級編成となった際、新校舎に入りきらず旧校舎を使用した経験があります。同じ学年でありながら、一方は設備が整った新しい教室、もう一方は古い教室で学習するという設備格差が生じました。統合にあたっては、すべての子どもたちが不公平感なく快適に学習できるよう、準備期間のうちに教室環境を均一に整備していただきたいです。